

# 山岳友の会会報

2020年1月 第36号



御嶽山二ノ池 撮影：荻野 秀夫

## も く じ

年頭のご挨拶	会長 山口 孝	2
第44回現地研修会（燕山荘・大天井）	報告 荻野・滝沢・小林	2
第45回現地研修会（御嶽山）	報告 坂本 孝・勅使河原 幸一	3
信州フィールド科学賞・第13回憧憬の森講演・会員交流会	報告 小林 久雄	5
上高地ST養魚池メンテナンス	報告 小林 久雄	5
追悼 神谷 圭子さん	竹原 文子 小林 久雄	6

## 年頭のご挨拶

友の会会長 山口 孝

友の会の皆様、あけましておめでとうございます。

山岳友の会も本年で設立10年目となりました。皆様の御協力、御指導を仰ぎながら奥深い楽しい山旅を楽しませて頂き、深く感謝申し上げます。これからも皆様の熱い御尽力をよろしくお願い致します。

さて、昨年は記憶に無い程の悪天候が続き、想定外の災害に見舞われた年となってしまいました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

地球温暖化の影響で、南の島特有のスコールのようなとんでもない大雨、人を吹き飛ばす暴風、強風など未だかつて経験した事の無いような天候が続いています。待ったなしの喫緊の温暖化対策が迫られています。

山小屋の対策としては、登山道の整備が一番の重要事業であり、大雨や強風に耐える登山道の維持、補修をこれからも続けて参ります。

新年度は、災害の無い良い天候を心より願ってやみません。皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 燕山荘から大天井岳に登る

### —第44回現地研修会（燕山荘・大天井）報告—

荻野秀夫 滝沢義夫 小林久雄

8月29-30日 大天井宿泊

1日目:松本駅 6:00 → 田淵行男記念館 6:30 → 中房温泉 7:30 → 燕山荘 11:30  
→ 昼食 → 大天井 15:00 → 宿泊

2日目:大天井 6:30 → 常念小屋 10:30 → 昼食 → 一ノ沢 14:30 → 田淵行男記念館 15:30 → 温泉利用 → 松本駅 17:00

#### 1日目

田淵行男記念館に11名が朝6時30分に集合、大先輩は横浜から参加の松尾さんや浅間の遠藤さん、タクシーで天候を気にしながら中房温泉に向かった。

佐賀の豪雨災害で心配される天候の中、雨具を装着しスタート。降り出した雨にも負けずに、急傾斜の樹林帯を合戦小屋に向かう。幾つかのベンチを詰めて、雨本降りの合戦に着き腹ごしらえ。

先ずは燕山荘まで元気に全員が到着し休憩。時折、燕の山頂も見えるが稜線の風は強いので足元に注意しながら、大天井に蛙岩、切通岩、喜作レリーフ、3時過ぎに大天井に全員到着…。元氣組は大天井岳山頂を目指す。





## 2日目

昨夜の雨音に早朝は霧が深い。

大天荘の朝食後に常念小屋に一ノ沢下山ルートを確認しスタート。視界10メートル、風も10mを気にしつつ、東大天井岳を巻き気味に横通岳を巻いて常念岳を正面に進む。時折、安曇野が視界も開け見える、雨は小康状態。上高地や涸沢カールも見える。常念岳が大きくなって常念小屋で小休止、一ノ沢を下山。流石に一ノ沢の水量は多く、下山

道は沢状態で苦戦した。

歳を重ねて今回の山行はキツイものだったが、予定時間よりも早く雨と強風に打ち勝ち12時30分タクシーにて全員無事下山、田淵行男記念館に戻り解散。竹原さん立花さん女性陣お二人大変お疲れ様でした。

【写真：竹原 文子】

電話：大天荘 090-8729-0797 常念小屋 090-1430-3328

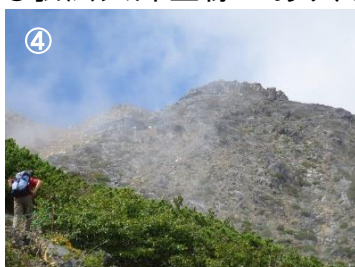
## 第45回現地研修会『火山マイスターと行く御嶽山』報告

坂本 孝／勅使河原 幸一

9月17日(火)・18日(水)の両日に噴火(2014年9月27日)以来入山規制されていましたが、今年7月に初めて登頂が可能になりました長野・岐阜両県にまたがる独立峰の御嶽山(3067m)に5年の節目の年を迎え、1泊の現地研修会が行われました。

会員の御嶽山火山マイスターの資格をお持ちになる澤田、立花両氏の参加を含め、総勢16名での現地研修会となりました。

17日(火)の初日は、秋の風を感じながら御岳ロープウェイ乗場前のセンターハウスの駐車場に集合した参加者は(立花氏とは途中の女人堂で合流)、9時過ぎに鹿ノ瀬駅(1570m)からロープウェイに搭乗し飯森高原駅(2150m/7合目)へ、ここから御嶽山が眺められるようですが、あいにくガスが掛かり残念！然しまずまずの登山日和、木片チップ、木道、階段の黒沢口登山道を登り、行場山荘から女人堂(2470m/8合目)へ、霊峰のためか、しめ縄が何箇所にも見られます。また女人堂までの間、途中数個所で澤田火山マイスターにより火山灰層の年代識別<sup>①</sup>や溶岩道跡等々を現地研修<sup>②</sup>。女人堂前には、阿波福寿講<sup>③</sup>の「西開霊神」「西覚霊神」が鎮座、ここを右へ行くと三ノ池方面に(現在通行止め)。我々は左、頂上剣ヶ峰方向へ更に登って行くと、登拝したと言う伝説がある弘法大師坐像があり、おひざ元で暫し休憩。この辺まで来ると緑は極端に少なくなり、噴石



を含むごつごつした岩が目立つようになる、次の休憩場所は噴火後荒れた感じのする黒岩の休憩場所、見上げるとガレ場に建つ石室山荘<sup>④</sup>を望むことが出来る。しばらく登り石室山荘内(2900m/9合目)を通り抜けて上部にある覚明堂へ、以前はこの辺で雷鳥の姿を見ることが出来たようですが・・・覚明堂<sup>⑤</sup>は覚明行者の亡がらが葬られたと言われているそうです。覚明行者さんは今



の愛知県春日井市牛山町生まれとか、身近に感じ大変勉強になりました。

予定では、これから宿泊先の二ノ池ヒュッテに向かうことになっていましたが、鈴木啓助先生の的確なご判断により翌日の天候悪化を考慮して黒沢分岐付近(標石には↑二の池へ七〇〇米、←剣ヶ峰へ四六五米とある)にザックをデポして剣ヶ峰山頂まで往復をすることに、少し登った辺りから二ノ池<sup>⑥</sup>が見えるが、しかし・・・

前をご存知の方々の口からは、コバルトブルーだったのに！池が無い！埋まってる！と、その変貌ぶりに一様に驚きの声が・・・。

いよいよ到着した御嶽山頂上剣ヶ峰神社下の広場には、新設された避難シェルター<sup>⑦</sup>が3基置かれ、直ぐそばには慰霊碑も設置され、今回の参加者もそれぞれに噴火の際の死者58人、行方不明者5人の犠牲者に対して手を合わせて慰霊をしました。噴火前まで営業をしていた御嶽山剣ヶ峰山荘は解体工事中で、解体後は避難施設になるとお聞きしました。

神社への階段を上る、立花火山マイスターによると階段上には火山灰がうず高くつもり清掃に時間を要したとのこと。この階段の手摺も数ヶ所に噴石が当たり穴が開いたり壊れたところが、石段脇の灯籠も傾いたり倒れたり・・・痛々しい。再建された黒沢御嶽神社奥社や社務所。噴火直後この辺りは堆積した火山灰が腰の辺りまであったそうでその痕跡が今でも玉垣に残り、また噴石の痕跡もあり噴火が激しかったことが伺えます。近くに設置されていた半鐘にも噴石で開いた穴(約10cm)が見られました。山頂からは噴火口<sup>⑧</sup>や完全に灰泥に埋まってしまった一ノ池<sup>⑨</sup>やその下にある二ノ池、新装になった二ノ池山荘をガスった中に見ることが出来ました。グレー一色の別世界の感が・・・一ノ池や二ノ池が以前のようにコバルトブルーに染まるのは果たして何年先のことでしょうか？

ザックをデポした黒沢分岐付近に戻り、今夜の宿泊先二ノ池ヒュッテに向かう。二ノ池湖畔を歩く、池に水が有るが濁っている。以前はこの水を飲料水や風呂に利用していたと聞く、今は雨水に頼っているのが現状とのこと。

二ノ池ヒュッテに到着後一服してから、ヒュッテ内に噴石(直径約20cm)が落下した部屋(梅桜)が保存してあり見学する。

宿泊する二ノ池ヒュッテ(長野・岐阜県境)は昨年7月に二ノ池新館が「二ノ池ヒュッテ」として営業を再開。新オーナーの高岡ゆりさん<sup>⑩</sup>は千葉県柏市ご出身で元システムエンジニア、30歳から登山を始め、以前は奥秩父の山小屋の小屋番を務めていたとのこと。高岡さんは女性の目線を大切に、温かな雰囲気の旅館の様な山小屋にしたいと熱く

語られました。

18日(水)予想通り小雨降る中、8時半に二ノ池ヒュッテ<sup>⑪</sup>を出発し途中石室山荘でお茶の接待を受け、黒岩を9時15分通過、女人堂で15分休憩後10時5分出発、行場山荘に向かい<sup>⑫</sup>力餅を食す、ここから約10分程でロープウェイの飯森高原駅に到着、11時半過ぎに順次搭乗し鹿ノ瀬駅へ下る。

今回の現地研修会「火山マイスターと行く御嶽山」生々しい噴





火、噴石の傷跡が随所に見られ、以前から噴火に対する情報に多少は触れる機会はありましたが、現地研修会によって火山防災に対する意識が高まったと感じます。ヘルメット着用は勿論のこと、火山に登る前に噴火警戒レベルの確認や山小屋等からの事前情報を確認準備することが大事だと思いました。

本日最後のイベントは開田高原内御嶽明神やまゆり荘で温泉&昼食後13時40分無事散会となりました。

御嶽山火山マイスターの澤田、立花両氏を始め事務局の小林久雄さん、鈴木啓助教授、また計画に参画された皆さん有り難う御座いました。

## 信州フィールド科学賞・第13回憧憬の森講演・会員交流会報告

小林 久雄



今年信州フィールド科学賞に太田民久(富山大学)『森林植生が環境中の栄養塩動態の空間変異をもたらすメカニズムに関する研究』が受賞されて、講演がありました。

北大出身で和歌山にある北大の研究林で研究されていた報告でした。

杉の落葉が照葉木の落ち葉の3倍から5倍のCaをもたらすことから、水性昆虫類の横エビなどの甲殻類にどのように影響するかなどを調べたお話でした。

杉が日本固有の森林資源で広く利用されている(吉野杉)とも関連し、地中の土壌や木の根の状況など興味深いお話でした。特に近年Caの分析などの開発機器が発展して研究にも優位な事などもお話されました。会場からも質問などがあって勉強できました。



引き続き、火山マイスターの澤田さんが御嶽山の写真を交えてマイスターの様々なお話を『憧憬の森講演会』で更に勉強しました。

さて、10年目の『友の会の計画』もご意見いただき、3月に向けて調整していきたいと思っております。

お楽しみの交流会は30名の参加を頂いて、『凡蔵』に場所を移動し盛り上がり年瀬恒例の『忘年会』を無事に終了できました。

来年は「東京五輪パラリンピック」と賑やかですが、友の会も尾瀬沼満喫など大勢の参加を期待し、年内行事は無事に終了しました。

年明け2月の乗鞍を愉快にも多くの参加をよろしくお願いいたします。

【写真：荻野秀夫 渡邊 修】



明神上高地ステーションの養魚池メンテナンスしました。

小林 久雄

秋らしい天気の中10月26・27日に養魚池メンテナンスしました。台風被害の長野地区のボラティアが大変な時ですが頑張っ泥上げです。天候にも恵まれましたが何時にない水量で排水処理に少

し手惑いました。バケツ4つを使い池の泥を一輪車で搬出です。バケツに入れる時に撥ねて飛び散り苦労します。

3時間ほど頑張っって何とか4つの池をメンテナンスしました。田下さん荻野さん滝沢さんありがとうございました。



追伸 晩秋の涸沢ヒュッテに11月2日に出掛けた折に池の様子を確認。ナント落ち葉が池を覆いガッカリです。3日の帰りに滝沢さんと立ち寄り1時間ほど落ち葉を上げました。お魚は元気に池に戻っていて一安心しましたが…。来春又作業しないといけませんね。

## 追悼

圭子さんを偲んで

竹原 文子

年が明け、新春を寿ぐように、圭子さんの愛した蝶ヶ岳が白銀に輝いている。彼女は今岳のふところに帰り、眠っているのだろう。圭子さんに別れを告げた日も、紺碧の空の下、見守るようにくっきりと姿を見せていた蝶ヶ岳。

あまりにも突然のお別れに、まだ実感がわいてこない。彼女の笑顔や声、「今年こそ行くからね」「いつでもいいよ、電話してね」毎年のようにそんな話をしてきた。そしてその約束が果たされないまま、圭子さんは逝ってしまった。いつでも行ける、いつでも会えると思っていた自分をどうしてくれよう…。

何年も運営委員会の会場としてお宅を提供してくださり、そのたびに専門のオルガニストまで呼んでのパイプオルガンの重厚な響きに、じっくりひたらせてもらうという得難い経験もした。中村宅にパイプオルガンがきた経緯は、みなさんすでにご存じだろうから記さないが、その英断と実行力には頭が下がる。また女性の身での山小屋経営は、筆舌に尽くしがたい苦労もあったことだろう。そんななか、弱音を吐かず粛々とやってきたのが中村圭子という稀有な女性ではなかったのかと思う。



平成26年頃 左から市川参与、圭子さん、鈴木教授

毎回、運営委員会が終わって後片付けが済むと、「お茶飲みながら話そうよ」と女同士の雑談をした。ほんとの雑談や、やはり母親として子どもの話が出てくる。「のんびりやで困るのよ」なんて言いながらも、娘を愛おしむ気持ちがありありと感じられ、いいかげんな母親の私は恥じたものである。酔ってソファで寝てしまったご主人にも「あ～あ、こんなところで寝てしまっ」と温かいまなざしを注いでいた。良き母、良き妻がそこにいた。

圭子さん、今年は絶対行くからね。待っていてください。

合掌

2020年 初春

令和の暮、乗鞍ステーションで友人達と忘年会をした。

例のごとく良く酒を飲み十分に愉しんだ。

早朝トイレに起きて・・・滝沢さんと身体に悪いと煙草、更に二人でビールを手にした。

早い時間から二人でビールを飲み始めたのが4時半を少し過ぎた頃だった。

我を忘れて二人でビールを飲み続けた。『いい忘年会だねえ』と呑気に飲んだ。

まさか圭子さんが大ピンチとも知らずに飲んだ飲んだ飲み続けた。・・・酔い続けた。

「ゴメンなさい。圭子さん」家に戻った翌朝新聞を広げて・・・呆然。

何故・・・？ どうして・・・？ えええホント・・・？

三年ほど前に冬の黒百合ヒュッテに鈴木教授と娘の梢さんと四人で思い出深い山行をした。

あの時にも既に体調は悪かったとは・・・苦しかったとは・・・何も知らずに雪道を登った。

黒百合の岳樹さんとも楽しい一夜を過ごしたけど・・・本当に素晴らしい一夜だったのに・・・。

ストーブ脇の書棚から『女たちの山小屋物語』を見つけて・・・。

【蝶ヶ岳ヒュッテ】中村圭子 ～一期一会を大切に、理想の山小屋をめざして～

教授が感動して・・・涙して読んでいた。

小屋に入って令和元年で 37 年になるという。二十代後半で父の死後決意を固めたと本にある。

様々な困難を乗り越えて蝶ヶ岳ヒュッテの経営を決断した様子が本には書かれていた。

天狗岳を目指したが強風もあり途中で黒百合ヒュッテにもどった。

とても素敵なお思い出です。処分寸前のパイプオルガンを自宅の土蔵を移設したり、友の会の実行委員会を自宅開催してくれたりとお世話様でした。

思い出は尽きず今年こそは涸沢ヒュッテで談話会講演をとの矢先の訃報に驚きと無念さがつのります。

さようなら圭子さん 安らかにと祈るばかりです。

合掌



255 中村圭子

女たちの山小屋物語より
「お一人お一人と結ばせて頂いたご縁は、妻の宝です」
「周りの方々家族の喜びが自分の喜び、それが妻の信条だった気が
いたします。決して人を疑わず、如ます、どなたに対しても分け
隔てなく接するところは、一番の魅力。我が身はさておき、いつも
誰かのお役に立てるのならばと頑張っていました。 氣さくで嫌らない
人柄を多くの方に親しんで頂いて、感謝しています。
自身の父親から受け継いだ山小屋の経営をはじめ、山小屋
経営者をつくる「北アルプス山小屋友好会」の副会長も務める
など多くの活動に力を尽くした妻。保護司の活動にも情熱を注ぎ
これまで沢山の青少年少女達との絆を大事にしてきました。また、
音楽などの文化振興にも貢献し、山形県の学校にあった歴史的な
パイプオルガンを処分寸前に自宅に移設したのには驚いたもので
す。移設後は家の蔵を改装して、どなたでも演奏できるよう
無料開放しております。パイプオルガンを身近な楽器に感じて
欲しいという思いもあったのでしよう。改めてこれまでの日々を
振り返ると、妻の行動は常に、人と共にあり、ありました。
ご縁に恵まれ、皆様に愛された幸多き人生でした。
〜夫より

女たちの山小屋物語より

故中村(神谷)圭子 は、令和元年十二月十五日、満五十六歳にて生涯をとおしました。

生前心通わせ、支えて下さった皆様、深く感謝申し上げます。本日はご多用の中、ご会葬を頂き誠にありがとうございます。略儀ながら書状をもつて謹んでお礼申し上げます。

令和元年十二月二十一日

長野県松本市村井町南一丁二七六一

親戚 中村 圭子 神谷 丈二 中村 村 村 楓 梢

外 親 大滝山荘 同

尚 本日は何かとご連絡に取り柄し不足の致し方なく、ご容赦下さいませようお願い申し上げます。

信州大学山岳友の会会報 第 36 号  
発行日：2020 年 1 月 10 日  
発行：信州大学山岳友の会  
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1  
信州大学山岳友の会事務局  
TEL：0263-37-3332  
FAX：0263-37-2438  
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp